

認定 NPO 法人 WE21 ジャパン・ほどがや

2021 年度 事業報告

(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

I 資源のリユース・リサイクルを推進する事業（リユース・リサイクル事業）

1. WE ショップ星川店・天王町店を拠点としてリユースリサイクル事業を行い、資源の有効活用を推進しました。

ショップの売上年間目標額を、星川店 540 万円 天王町店 560 万円としましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策による短縮営業の続行や休業による顧客数、寄付者数の減少の影響もあり、目標額には届きませんでした。

【星川店活動報告】

年間売上実績:5,047,648 円(税込)(目標比93% 前年比110%) 1 日平均高 22,681 円

営業日数:222日(前年比109%) 客数:6,216人 (月平均518人・1 日平均 28人 前年比113%)

寄付件数:963 件(新規 22 件 前年比118%)

ショップボランティア延べ人数:570 人 (前年比107%)

1. スタッフ・ボランティア体制:スタッフ3人体制も2年目になり、年度末には新たにスタッフ1人の雇用を決定し、4人となりました。今年度は雇用形態を月給制から時給制に変え、業務時間と給与のバランスをとりながら運営しました。また、一手間かかる作業もボランティアさんとスタッフが一緒に行う事により、ボランティアさんとのコミュニケーションが進み、ボランティア参加の回数も増えました。
2. 新型コロナウイルス感染防止対策:密にならない販売方法をスタッフミーティングで検討しながらショップ運営を進め、コロナ禍でも継続して参加いただいたボランティアさんと協力して感染防止ルールを作りました。寄付品、来店者共に減少傾向ですが、コロナ禍でもショップへ足を運んで来られる方、寄付品を持って来られる方への感謝の気持ちとして「共通感謝券配布」を7月に行い、9月に半額販売を実施してお客様を大いに盛り上げました。感染対策をしながらの久しぶりの初売り全品半額の2日間の開催は寒さにも関わらず賑わいました。
3. 他団体とのネットワーク活動:地域の活動団体や環境団体などとの交流と情報発信場所の役割として、前年度に引き続き、資源を生かす取り組みである廃油、ケータイ電話の回収に努めました。さらに、グリーンダウンプロジェクトの羽毛のリサイクルに協力し、羽毛布団23枚、ダウンコート27枚回収しました。また、地域活性化につながる朝市街道(地場野菜販売)も3年目になります。これらはお客様に徐々に浸透し、好評を得ています。
4. 着物販売:星川店は着物販売を特色にしていますが、昨年引き続き「着物、帯、和装小物」など着物コーナーをショップ内に常設し、着物アドバイザーが曜日を決め対応出来る様にしました。マネキンを使っ

着付けや、来客への適切なアドバイスも好評です。商品入れ替え時には特別価格にするなど、顧客にアピールしました。2月に「ミニ着物フェア」を予定していましたが、コロナの再拡大を考慮中止し、楽しみにしていた顧客向けに「着物・帯・反物」に特化したお買得販売をして売上向上を図りました。

5. リメイク品販売:和布から作られた一点物のコートやチュニック、パンツ、季節の手作り作品は高く支持されています。また、長引くコロナ禍でマスクの需要は今年度も継続し売上に貢献しました。着物を利用したリメイク作品の作り手を増やす事が今後の課題です。
6. 研修受け入れ:WE21 ジャパン事務局のショップ研修受け入れを行いました(11月10日)。

星川店

売上実績(目標)

4月 営業 日数 (21)	短縮営業(当面の間) 10:30~16:00 文具品・手芸品半額 帯 300円均一、 帯締め 3本 100円	・引き続き、感染防止対策の徹底と、密にならない 販売方法の実施 ・着物は、アドバイザーの活躍もあり売上に貢献 (販売点数 49点) ・良品寄付に恵まれる	496,555円 (42万円) 客数 607名 寄付 110名
5月 (18)	ガラス製品 紳士下着、ハンカチ、ストッキング半額 履き物売り尽くし	・リメイクチーム活動ルールの改定 ・履き物販売を5月末で終了	381,636円 (46万円) 客数 473名 寄付 88名
6月 (22)	バッグ、陶器、衣類 半額	・展示スペース確保のためレイアウトの変更 ・夏着物、夏帯、反物はリメイク材料として喜ばれている。 ・マスクは引き続きよく売れる ・琉球ガラスなど、良品の寄付に恵まれる ・新しいレジに交換(1日~)	537,918円 (46万円) 客数 614名 寄付 85名
7月 (20)	アクセサリ、着物ハギレ、雑貨全般半額 共通感謝券配布	・共通感謝券配布枚数 179枚 ・熱海土砂災害緊急支援募金(8月末まで) ・賛助会員拡大キャンペーン(7、8月)	346,210円 (46万円) 客数 472名 寄付 75名
8月 (5)	共通感謝券使用期間 夏季休業 8/8~16 緊急事態宣言により休業 (~8/31)	・共通感謝券回収枚数 28枚 ・WE21 インターン生の研修受け入れ(24日)	105,739円 (40万円) 客数 103名 寄付 24名
9月 (20)	共通感謝券使用期間延長 着物半額 バッグ・小袋半額	・共通感謝券回収枚数 41枚	378,229円 (47万円) 客数 452名 寄付 140名
10月	貧困なくそうキャンペーン	・15日売上:22,979円(寄付金額 17,590円)	429,960円

(21)	フードドライブ実施 10/1~31 文具類、衣類、手芸品 漆器半額	・フードドライブ 1 箱をフードバンクかながわへ 寄付	(55 万円) 客数 599 名 寄付 107 名
11 月 (20)	茶器・額類・花器・陶器 半額	・茶道具をテーブルにディスプレイしてアピール。 Facebook にも投稿。花器・陶器など、半額期 間を 2 週間にして多くの人に見てもらえた ・午前と午後の売上高と客数を 1 ヶ月間、調査し た ・WE21 ジャパンスタッフ研修受け入れ(10 日)	503,794 円 (46 万円) 客数 571 名 寄付 127 名
12 月 (18)	着物、一部半額 バッグ類 300 円均一 冬季休業 12/25~1/5	・着物常設も定着。帯・反物も好調 ・クリスマス用マスクもコンスタントに売れる ・クリスマス&お正月用品は良品に恵まれる	503,201 円 (45 万円) 客数 509 名 寄付 63 名
1 月 (17)	初売り(1/6,7) 手芸品半額 ウール着物・アンサンブル など均一販売 チョコ募金開始	・初売りは混乱もなく賑わいがあった よみがえり手袋お年玉プレゼント 実績 131,961 円 カレンダーが人気 ・南米土産などテーブルディスプレイも映えて好 評	420,804 円 (42 万円) 客数 529 名 寄付 57 名
2 月 (18)	帽子・マフラー・スカーフ半 額、着物・帯・反物半額	・開催予定だった着物ミニフェア&手作りフェア 感染急拡大のため開催中止 ・チョコ募金 ・着物類半額により着物販売に活気があった Facebook や HP の情報に効果あり ・スタッフ 1 名募集	419,711 円 (40 万円) 客数 435 名 寄付 78 名
3 月 (22)	3.11 を忘れない 創業祭(3/16~18)	・11 日の売上寄付 16,380 円 ・創業祭セール開催(16~18 日) 185,293 円	523,891 円 (45 万円) 客数 591 名 寄付 94 名

衣類 1,757,384 円(目標 200 万円) 雑貨 1,907,060 円(目標 240 万円)
リメイク 640,331 円 (目標 40 万円) 着物 742,873 円(目標 60 万円)
売上合計 5,047,648 円 達成率 93,4% (昨年 4,595,260 円)

【天王町店活動報告】

年間売上実績:5,038,854 円(税込)(目標比 90% 前年比 110%) 1 日平均高 22,127 円
営業日数:224 日(前年比 112%) 客数:6,717 人(月平均 560 人・1 日平均 30 人 前年比 116%)
寄付件数:1,368 件(新規 36 件 前年比 106%)
ショップボランティア延べ人数:672 人 (前年比 138%)

1. スタッフ・ボランティア体制:3人体制でショップ運営を行いました。スタッフの事情で一時期2人体制となったため、緊急にスタッフ募集を行い、1月から新しいスタッフが入り、4人体制で運営しました。
2. 新型コロナウイルス感染防止対策:毎月スタッフミーティングを開催し、コロナ禍の中でどのように売り上げを伸ばすかを話し合い、密にならないように工夫してショップ営業を行いました。コロナ禍でイベントは控えていましたが、10月25日～30日に全品半額セール、1月6日～8日に初売り全品半額セールを開催しました。密にならないように入場制限をし、15分位のお買い物をお願いし、アルコール消毒の徹底など万全を期して行いました。6月にはアクセサリワンコイン(500円均一)、時計の販売をして(43個の電池交換)、29点44,550円の売上げを出すことができました。時計の販売では、購入後に止まってしまったり返品されるものもあり、課題が残りました
3. 他団体とのネットワーク活動:循環型社会の形成をめざす環境団体の資源回収拠点として、グリーンダウンプロジェクトの羽毛のリサイクルに協力し、羽毛布団28枚、ダウンコート等21枚を回収しました。例年通り、廃油とケータイ電話の資源回収にも努めました。また、朝市街道の地場野菜の販売は、お客様に声をかけをしながら完売を目指しました。2022年2月、3月は中止となりましたが、問い合わせも数件あり、待っていて下さるお客さんもでき定着してきました。
4. フェアトレード品販売:フェアトレードフェアを年2回(5月17日(月)～22日(土) 12月6日(月)～11日(土))開催し、フェアトレード品を広めるとともに支援を身近に話すきっかけとなりました。12月には、新たに第3世界ショップのチョコレート・紅茶等を取り組みました。HACCP(食品衛生管理手法の国際的な基準)義務化が6月から開始され、食品衛生管理表を作成し記入しています。
5. 東日本大震災支援販売:「3・11を忘れない」イベントとして、東北支援品(ムラカミの海産物、百屋のカレー、シャインの藻塩など)を仕入れ、2月中旬から販売しました。
6. 就労支援・インターン受入れ等:2021年6月～12月まで1期受け入れました(ワーカーズコレクティブ協会から女性1名)。終了後は、ショップボランティアとして参加しています。保土ヶ谷区社協からの紹介で高校生のボランティア、また、青少年指導センターからのボランティアと、合わせて3名のボランティアが新たに参加しました。8月24日にはWE21インターン生の研修の受け入れを行いました。

天王町店

売上実績(目標)

4月 営業 日数 (21)	短縮営業(当面の間) 10:30～16:00 アクセサリワンコイン販売 衣類、台 所用品半額 1000円以上お買い上げで 半額	・引き続き、感染防止対策の徹底と、密にならない販売方法の実施 ・1000円以上お買い上げはお客様に好評。 ・靴のトラブルが続く	518,674円 (48万円) 客数688名 寄付124名
5月 (20)	フェアトレードフェア 5/17～22 時計販売 長袖衣類半額 履き物売り尽くし	・HACCP6月からの義務化への対応として「食品衛生管理・チェック表」の作成 ・履き物販売終了	458,207円 (50万円) 客数552名 寄付141名
6月	ガラス食器、パンツ・ワンピース	・履き物販売終了にともないレイアウトの変更	455,453円

(21)	ース、雑貨類 半額	お客様にも好評	(45万円) 客数 641 名 寄付 138 名
7月 (21)	1000 円以上お買い上げで 半額 共通感謝券配布	・共通感謝券配布枚数 189 枚 ・熱海土砂災害緊急支援募金(8 月末まで) ・賛助会員拡大キャンペーン (7, 8 月) ・就労支援受け入れ開始(20 代女性 1 名)	373,655 円 (47 万円) 客数 490 名 寄付 90 名
8 月 (5)	共通感謝券使用期間 夏季休業(8/8~16) 緊急事態宣言により休業 (~8/31)	・共通感謝券回収枚数40枚 ・WE21インターン生研修受け入れ(24 日)	81,746 円 (38 万円) 客数 114 名 寄付 27 名
9 月 (19)	共通感謝券使用期間 (延長) 夏物衣料 220 円均一 身につける雑貨類半額	・共通感謝券回収枚数 56 枚	292,997 円 (42 万円) 客数 463 名 寄付 124 名
10 月 (22)	貧困なくそうキャンペーン フードドライブ実施 10/1~31 食器棚のもの、秋物衣類半 額	・16 日売上 19,789 円(寄付金額17,990 円) フードドライブ 3 箱をフードバンクかながわへ 寄付 ・秋の感謝セール開催(25~30日) (売上実績 261,007 円)	539,732 円 (50 万円) 客数 766 名 寄付 151 名
11 月 (21)	衣類半額	・秋物の整理	482,562 円 (50 万円) 客数 567 名 寄付 189 名
12 月 (18)	フェアトレードフェア 12/6~11 子ども服半額 冬季休業 12/26~1/5	・フェアトレードフェア 売上 55,549 円 (目標 5 万円) ・第 3 世界ショップのチョコレート販売。 ・スタッフ 1 名募集	430,971 円 (50 万円) 客数 540 名 寄付 134 名
1 月 (18)	初売り 1/6~8 バッグ 300 円均一、スカー ト、パンツ 200 円均一 チョコ募金開始	・初売り好調 よみがえり手袋お年玉プレゼント 実績 205,324 円 ・新たなスタッフがボランティア体験から研修に 入る ・若いボランティアが参加	513,232 円 (45 万円) 客数 670 名 寄付 120 名
2 月 (19)	衣類半額 東北支援品の販売	・冬物衣類、コート・ジャンパー半額や東北支援 品販売、チョコ募金 ・「SDGsよこはま City 冬」に参加協力(20 日)	426,218 円 (45 万円) 客数 556 名 寄付 112 名

3月 (21)	3.11を忘れない	・11日の売上寄付 14,770円 ・東北支援品の販売	465,407円 (45万円) 客数695名 寄付95名
------------	-----------	--------------------------------	---------------------------------------

衣類 2,295,205円(目標240万円) 雑貨 2,206,613円(目標260万円)
 フェアトレード品・東北物産品 53,7036円(目標60万円)
売上合計 5,038,854円 達成率 89,9% (昨年 4,554,138円)

2. 新型コロナウイルス感染拡大防止対策に取り組み、安心安全を優先にした営業を行いました。

- ・ 感染の急拡大により短縮営業(10:30-16:00)を継続しました。(2021年1月～)
- ・ 緊急事態宣言発令に対応し、夏季休業を延長して8月23日～31日臨時休業し、再開時にショップの感染防止対策を討議しました(9月)
- ・ オミクロン株の感染急拡大のため、神奈川県・厚労省の対処方針をもとにショップの対策を決定し、スタッフ・ボランティアに周知しました(2月)
- ・ 入店時のアルコール消毒、換気に心がけ、密にならないよう滞留人数に配慮しました。
セールの際は、整理券を渡して入店人数を5人に制限し、買い物時間を15分の呼びかけを行いました。

3. 「SDGsの目標12: つくる責任・つかう責任」を推進し、地域のチャリティショップとして、地球環境に配慮した寄付品の回収と販売をすすめました。

- ・ 販売した衣類点数 星川店 4801点 天王町店 5110点
ショップで販売できなかった衣類はWE21グループ提携先のナカノ株式会社でさらにリユースリサイクルされました。同社が開発したエコ手袋の販売も行いました。ガラス・陶磁器についても、飯室商店、木村管工(株)へ搬出しました。ビンの再生や路盤材などに再資源化されます。
- ・ 寄付品提供のお願いチラシを改訂し、受け取り○と×を明記し、SDGs12「つくる責任つかう責任」と「WEショップは持続可能な開発目標SDGsを支援しています」を記載しました(6月～)
- ・ 販売後のトラブルが多いことから、履き物(靴、サンダル、ぞうりなど)の取り扱いを5月末をもって中止しました。
- ・ 「2020年度リユースリサイクル活動・支援先報告」のミニチラシを配布しました(6月～)
- ・ 「寄付品」チラシと「リユースリサイクル活動・支援先報告」チラシの大きさ、紙質が同じなので、見分けがつきにくかったこと、寄付品チラシに定休日を記載しなかったことは反省点です。
- ・ WE21ジャパンの「SDGsよこはまCity冬」への参加に際し、天王町店での「WEショップの資源の循環活動」紹介に協力しました。資源循環の仕組みがわかりやすかったという感想をいただきました
(2月20日)

4. 寄付品を有効活用し、リメイク品の企画開発に努めました。

- ・ リメイクメンバー1人1人が特徴を生かした多彩な作品づくりに取り組み、売上に多大に貢献しました。
リメイク売上 640,331円(売上目標40万円 目標比160% 昨年924,907円)
作り手を増やすために作品展、販売等を企画しましたが、感染再拡大のため、残念ながら中止しました。
また、コロナ禍により、リメイクメンバー間の共有の場も持てませんでした。次年度は作り手を増やす工

夫と、リメイクメンバー間の交流、共有の場をつくることが課題です。

- ・ リメイクチーム活動ルールを改定し、リメイクチームが製作にあたって必要とする道具に支障が生じた場合は、WE21 ほ도가やが対応するなどのルールを決めました(5月)
- ・ リメイク管理作業に対して担当者に毎月2時間分の作業手当を支払うことを決めました(7月)
- ・ 布マスクの売上げが引き続き好調でした。エプロンなども好評でよく売れました。
 - ・ ほ도가や市民活動センターアワーズの「ほ도가や街の応援隊」の活動PR展でリメイク品を展示し、アピールに努めました。 保土ヶ谷駅アーバンアートほ도가や 9/17~29
- ・ 「ほ도가や生涯学習フォーラムまなぶん祭り」の団体活動PRで、リメイク品を展示しました。
保土ヶ谷駅アーバンアートほ도가や 2/6~16

5. 星川店の着物常設コーナーの認知を広げました。

リユースリサイクル部会と連携して着物の数や季節に応じた入れ替え、ディスプレイの工夫、リメイク材料への仕分けなどを計画的に行いました。

着物売上 742,873円(売上目標60万円 目標比123% 昨年621,053円)

6. 廃食油、携帯電話、羽毛製品の回収をすすめました。

廃食油、羽毛製品の回収は、HPをみて訪れる人も増え、認知が広がりました。

- ・ 廃食油回収: TOKYO 油田の回収ステーションとして使用済み油の回収を継続しました。

回収量 星川店 220kg(前年180kg) CO2削減量 572kg

天王町店 265kg(前年195kg) CO2削減量 689kg

ショップの電気は廃食油で電気を起こす「TOKYO 油電力」を使用しました。

廃食油リサイクルハンドソープの販売も固定客が増えています。

- ・ 羽毛回収: グリーンダウンプロジェクトの協力店としてダウン50%以上の羽毛製品の回収を進めました。 布団51枚(前年度25枚) コート48枚 (前年度43枚)

- ・ めぐりけータイ: 回収されたレアメタルの売却利益はフィリピン鉱山跡地の緑の回復事業に寄付します。

携帯電話 33台 タブレット 1台 コード 1本 (前年度 23台)

WE21 グループ回収地域全体で 11,693円

7. 来店者にとって居心地が良いレイアウトの工夫に努めました。

テーブルディスプレイを工夫し、見やすく動きやすい展示スペースの確保に努めました。

8. スタッフ、ボランティアにとって、安心安全なバックヤードになるよう、定期的に整理整頓を心がけました。

感染拡大防止に配慮し、バックヤードの定期的な消毒、ひとりずつの休憩などを徹底しました。

9. 定期的に危機管理対策の確認をし、救急箱を整備しました。

- ・ 悪天候の際のショップ営業については、スタッフと代表者で協議することを確認しました(7月)
- ・ 防災の日に、LINE、メールにて理事、スタッフ、ボランティア間で災害緊急連絡態勢を確認しました(9月1日)

10. ホームページやフェイスブックなどのSNSを活用しました。

- ・ ショッピングイベント、寄付品の写真などをこまめにアップし、来店につながるようにアピールしました。
- ・ フェイスブックを9月に立ち上げました。より多くの人に見てもらえるような対策が必要です。

【日時】通年

【場所】WE ショップほ도가や星川店・天王町店・その他保土ヶ谷区内
【従事者人数】理事 10 人・ショップスタッフ6人 リユースリサイクル部会6人
リメイクチーム 9 人 ぞうりチーム 3 人 ききおりチーム 2 人
【受益対象者】主に保土ヶ谷区内の市民
【支出額】10,862,811 円

II アジア等における市民、とりわけ女性の生活向上と自立のための活動を支援する事業 (民際協力事業)

1. 支援協力が必要な地域や人々に支援を実施しました。

支援・平和チームで適切な支援先を検討し、理事会で以下の2つのプロジェクトへの助成を決定しました。

(1) ゆたかで幸福なコミュニティ(S3)の構築プロジェクト (カンボジア)

(活動団体:緑の芽有機農園学校)【当事業への支援 4 年目】

カンボジアの小農家は、近隣諸国の輸入製品との競争の中で市場での販売に苦しみ、出稼ぎや借金に依存することが多い。この事業では、豊かなコミュニティを築くために有機農業を広げて農作物に付加価値をつけ、市場での販売ルートを構築できるよう生産者グループ(仲間づくり)を進めながら、農家の競争力を高め、収入を改善している。

2021 年度報告

8 県で約 300 人の農家のサポート活動が行われた。①有機稲作農家の指導:6県 148 人の農家を対象に実施し、有機米認証農家は計 171 軒に。②果物(ドラゴンフルーツ、ドリアン、イチゴ、アボカドなど)、野菜、コーヒー、キャッサバの栽培指導:6 県 125 人の農家を対象に実施。③PBT 有機農園学校での若い農家インターンシップ:3 県 21 人を対象に実施。④有機農法の短編ビデオ制作:土地改良法、果樹栽培のための土壌準備、コーヒーの栽培方法、生姜とイチゴの栽培方法、ドリアンとバナナと一緒に栽培する方法の 5 種類を制作し、Facebook で発信。⑤有機農法、モデル有機農家と栽培法、苗栽培と植樹などについて Facebook で 50 回発信。

■決算報告(10月まで) 4,825.59ドル(約 554,942 円) WE21ほ도가やからの助成金額:15 万円

2022 年度計画

有機農業で生計が立てられるよう、農家グループの研修やフォローアップ支援などを行い、有機農法の実践だけでなく、市場での販売につながる栽培の仕方をサポートする。また、農家と有機野菜販売ショップ、消費者グループをつなぐことを通して、小農家の生計を改善する。農家グループが自立して活動継続していけるよう、グループリーダー研修や、農家グループと有機農産物ショップ・マネージャーとの定期会議、農家と消費者の会議などを行う。

■総予算:10,150ドル(約1,167,250円)

WE21ほ도가やからの助成金額:15 万円

支援を決定した理由

① 有機農法を採用し、生産者グループを作り、都市の責任ある消費者とつなげることによって、農家の収入向

上を図っている。

- ② 新型コロナウイルス感染拡大により問題が増加し、且つ予算が大幅に不足する状況にあっても、意欲的に農家を訪問して有機農業を指導し、農民会議・有機農業研修を行い、SNSを通じて農業技術を広めている。
- ③ WE21 地域 NPO による少額の資金でも、有機農法の実践によって化学肥料などの経費を削減し生産コストを下げ、農産物を高価格で販売する実績をあげている。

(2) 平和にユナイト！（活動団体：一般社団法人 平和村ユナイテッド）（パキスタン・アフガニスタン） 【当事業への支援 3 年目】

現地 NGO の YVO (Your Voice Organization) と連携し、パキスタンとアフガニスタン国境において、両国の人々の連帯を図っている。暴力が身近にある環境のなかで、地域の人々が家庭や地域で自身が経験した争いごとや解決の事例を学び合い、両国の青年たちが自主的に平和や非暴力の取り組みが行えるよう支援をしている。2021年8月のアフガニスタン急変を受けてからは、戦闘で父親を亡くした子どもたち(父親が戦闘員の子どもたちを含む)への食料費配布、平和教育、精神的サポートを行うピースセンター運営など、アフガニスタンでの活動を重点的に実施している。

2021 年度報告

現地の治安悪化、8月の急変の影響で、9、10月はいずれの地域でも活動を停止。11月に再開後も目立たないように活動を実施している。女性や子どもたちへの暴力に対する取り組みは、活発な議論が行われていることで成果を出せている。また、地域の平和活動を担う人材育成を今年度の重点活動の1つとしてきたが、今年度の現地急変を経た後の活動再開後も円滑に行われており、十分に人材育成ができていると評価できる。ただ、暴力が社会に根深くある現状で、復讐と思われる事例も起こっており、社会全体への影響、インパクトはまだまだ少ない。

■決算報告：3,406,931 円

WE21 ほどがやからの助成金額：10 万円

2022 年度計画

平和や非暴力に関する学び合い、冊子の作成、地域の平和活動担当者へのトレーニング、平和のアート大会、地域の人々の自主的な平和活動、ワークショップなどを実施する。

様々な背景を持った女性たち、戦闘で父親を亡くした子ども達の参加も可能であれば図っていく。

■総予算：約 2,145,200 円

WE21 ほどがやからの助成金額：15 万円 募金：14,834 円

支援を決定した理由

- ① 紛争が続く社会の中で、多様な立場の人々が共に平和や非暴力を学び合う場を作り、意識啓発を図る活動は、平和な社会をつくる上での基盤である。
- ② 戦闘で父親を亡くした子どもたち(父親が戦闘員の子どもたちを含む)への食料費配布や精神的サポートなどを行う「ピースセンター」を運営し、社会にある暴力や復讐の連鎖から子どもたちを守っていくピースアクションをすすめている。
- ③ 現地急変から半年経ち、すでに国際社会からアフガニスタンが忘れられていくような状況のなかで、現地の人たちの平和への思いに共感し、連帯することで応援していきたい。

2. 同じプロジェクトを支援する地域 NPO との連携しました。

- ・ 急変するアフガニスタン情勢について、支援している地域 NPO と情報を共有しました。（8月）
- ・ WE21 ほどがやの Facebook を立ち上げ、アフガニスタン応援メッセージを発信しました（9/10）
- ・ BGA 支援 10 年のふりかえりと報告書作成に向けて支援チームを中心に討議しました。（11/11、1/18）
- ・ 以前支援をしていたイヤマン(フィリピン)への支援として、「WE21 旭 20 周年記念イヤマン・水源地となる山を守るための植林募金」に有志で賛同金 8,000 円送りました。（7/7）

3. 「貧困をなくそう」をテーマにキャンペーンを実施しました。

- ・ コロナ禍で生活困窮になった人たちへの支援、寄付を呼びかけました(7月～)
- ・ 下記の団体への支援として、「貧困なくそう」キャンペーンに引き続き、3月まで募金箱を設置しました。

自立生活サポートセンター・もやい	25,046 円	寄付金 11,860 円	募金 13,186 円
しんぐるまざあず・ふぉーらむ	27,992 円	寄付金 11,860 円	募金 16,132 円
移住連	24,815 円	寄付金 11,860 円	募金 12,955 円

【認定 NPO 法人 自立生活サポートセンター・もやい】

WE21 ジャパンほどがやが 2016 年より支援を続けている「もやい」は、ホームレスや派遣労働者、生活保護受給者への自立支援を行っている団体で、「経済的貧困」「人間関係(つながり)の貧困」という2つの視点から貧困の解決をめざしています。近年のコロナ禍で、生活相談日を増やしたり食料品を配布するなど、相談支援活動を拡大しています。一方で、ボランティア向けセミナーのオンライン開催、“もやいコーヒーロースト倶楽部”(フェアトレードのコーヒーの自家焙煎)など、活動を支援するための事業にも力を入れています。

代表の大西連さんは、今年度、内閣官房の孤独・孤立対策室の政策参与に就任し、政府の孤独・孤立対策の政策立案にも関わっています。

【認定 NPO 法人 しんぐるまざあず・ふぉーらむ】

親が子どもと一緒に楽しく生き、社会で活躍出来るよう、親と子ども双方に支援を行っています。新型コロナ感染拡大直後から生活に追い詰められたひとり親のために「だいじょうぶだよ！基金」を設置し、約22,000件の必要な家庭に食料や生活用品、菓子、絵本などを配布しました。困窮する子育て世帯に給付金を支給する署名5万筆を政府に届けました。今年9月には塾にいけない、コロナ禍でアルバイトも出来ないなど、学習継続に困難を抱える高校生1606人に学習支援金を贈りました。

【NPO 法人 移住者と連帯する全国ネットワーク(移住連)】

日本に暮らす移民や移民ルーツを持つ人々の権利や尊厳が保障される法制度の確立を目指して、入管法反対キャンペーンなどの政策提言活動を中心に行っています。コロナ感染拡大後、公的支援を全く受けられない難民申請や公的支援にアクセス出来ない移民者に緊急の現金給付を行っています。コロナ禍でワクチン接種も難しい人たちなどのサポートも行っています。今年3月に入管施設内で亡くなったスリランカ出身のウイシユマさんのように、急病となった移民や難民は健康保険が無く高額な医療保険費負担など、沢山の問題を抱えています。

4. 貧困なくそうキャンペーン月間にフードドライブを実施しました。

お客様の協力を得て「フードバンクかながわ」へダンボール4箱(星川1 天王町3)を送りました。

5. “3.11 を忘れない”キャンペーンを継続しました。

① 「福島ぽかぽかプロジェクト(認定 NPO 法人 FoEJapan)」に 毎月 11 日の売上の 20%と 3 月 11 日の売上全額を寄付しました。

4~3 月売上×20% 94,118 円(星川 48,021 円 天王町 46,097 円)

募金 28,153 円(星川 14,397 円 天王町 13,756 円)

合計 122,271 円

【福島ぽかぽかプロジェクト】

認定 NPO 法人 FoEJapan が運営する「福島ぽかぽかプロジェクト」では放射線量の高い地域からの親子を対象に、自然に触れて過ごせる猪苗代での短期間の保養プロジェクトを提供しています。食事づくりや自然体験、交流を通して、子どもたちは線量を気にせずのびのびと遊び、親たちにとっては被ばくについて語り合ったり悩みを分かち合ったりするリフレッシュの場となっています。

原発事故から 11 年経っても、福島県では原子力緊急事態宣言が未だ解除されていません。2021 年度は新型コロナウイルス感染状況をみながら、保養の必要性和開催を希望する声に応え、全員 PCR 検査を受け感染予防をし、小規模ながら 9 回(参加者 164 名)のプログラムを実施することができました。家族で過ごすときは、黙食、兄弟げんかが増加しましたが、一方、ぽかぽかの活動では野外を思いっきり遊び回り、友だちと仲良く過ごす姿が見られたとのことです。小規模でもかかる費用は同じのうえ、全員の PCR 検査代や感染防止対策等に費用がかかったとのことです。

② 3. 11に合わせ、海産物(宮城県気仙沼市 ムラカミ)、レトルトカレー(岩手県宮古市)、

藻塩(岩手県大船渡市(株)シャイン)など、東北支援品を販売し、お客様に共感を広げました。

売上合計 51,613円

6. バレンタインデーに合わせて、JIM-NET(日本イラク支援ネットワーク)のチョコ募金に参加しました。

(1月~2月) 38,196円

【特定非営利活動法人 JIM-NET】

チョコ募金を使って、イラク小児がん支援、シリア難民支援、福島の子どもたちを放射能から守る活動の支援、JIM-NET ハウス(小児がん総合支援施設)の運営などを行っています。550 円の募金をしてくださった方へ医療を受けている子どもたちが描いた缶に入ったチョコレート 1 缶をお渡ししました。

(チョコレートは北海道の六花亭製菓が原価で提供しています)

7. 近隣の団体への活動協力として物品寄付をしました。

- ・ 保土ヶ谷区社協(マスク・食料品) ・地域活動支援センター トラック(Tシャツ)
- ・ 放課後デイサービス はるの家(文房具類)
- ・ 特別養護老人ホーム ラポール三ツ沢(タオルなど)

8. 支援プロジェクトの活動報告会の実施しました。

感染予防に努めながら、会員と関係者のみへの呼びかけで開催しました。

平和村ユナイテッド報告会

2022年2月19日(土)10:00~12:00 ほどがや市民活動センターアワーズ 18名参加

報告者:一般社団法人 平和村ユナイテッド代表理事 小野山亮氏

紛争や暴力が絶えない厳しい治安状況のなかで、平和を希求する現地の青年たちの自主的な取り組みや女性たちの学び合い、戦争遺児たちへの心のケアなど、様々な平和アクションの報告があり、参加者たちの心に響く報告会になりました。

9. 国内のスタディツアー企画は、コロナ禍により実施できませんでした。

10. 情勢に応じた緊急支援を実施しました。

熱海土砂災害緊急支援募金を店頭で行いました(8月)

20,134円を「ピースポート災害支援センター」に寄付しました。

11. フェアトレード品の販売を充実し、フェアトレードの認知と販路拡大に努めました。

フェアトレード品の販売コーナーを、統一感のあるレイアウトにしてメッセージ性を高めるように努めました。

- ・ フェアトレードフェア 5/17~22 売上実績 22,297円 12/6~11 売上実績 55,549円
年間売上合計 485,423円

- ① 森育ちのしょうがパウダー フィリピン(ウバパス・ダイヨコン・ランバダ住民組織 シュントック財団)
- ② ジンジャークッキー フィリピン (夢21福祉会まどか工房/WE21 ジャパン)
- ③ コーヒー 東ティモール・ラオス・ペルー・フィリピン (珈琲工場&百屋)
- ④ チョコレート くるみ ペルー、ボリビア (ピープルツリー)
ドミニカ共和国、パラグアイ、カリフォルニア (第3世界ショップ)
- ⑤ 紅茶 インド、アフリカ(わかちあいプロジェクト) インド(第3世界ショップ)
- ⑥ シサムコーヒー フィリピン (シサム工房/コーディリエラ・グリーンネットワーク)
- ⑦ オリーブオイル パレスチナ (パレスチナ・オリーブ)
- ⑧ オリーブ石けん パレスチナ (フレンズオブアシーラ/アシーラ女性組合)

- ・ 「森育ちのしょうがパウダー」の年間販売数は91袋でした。
- ・ 第3世界ショップ(プレス・オルターナティブ)の食品(紅茶・チョコレートなど)を新たに取り組みました。
- ・ フェアトレード食品の販売に関する HACCP(食品衛生管理手法の国際的な基準)の義務化に対応し、食品チェック表を作成して消費期限の管理を始めました。(2021年6月~)

2021年度 助成金

ゆたかで幸福なコミュニティ(S3)の構築プロジェクト	ポンロック・バイトーン有機農園学校(カンボジア)	150,000円
平和にユナイト!	一般社団法人平和村ユナイテッド	150,000円

パキスタンにおける青少年の地域平和活動とアフガニスタンとの連帯	(アフガニスタン・パキスタン)	募金 14,834 円
---------------------------------	-----------------	-------------

合計 314,834 円

2021 年度 支援金・募金

認定 NPO 法人自立生活サポートセンター・もやい	25,046円 (寄付+店頭募金 13,186 円) コロナ禍による緊急支援 貧困なくそうキャンペーン
認定 NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ	27,992 円 (寄付+店頭募金 16,132 円) コロナ禍による緊急支援 貧困なくそうキャンペーン
NPO 法人移住者と連帯する全国ネットワーク	24,815 円 (寄付+店頭募金 12,955 円) コロナ禍による緊急支援 貧困なくそうキャンペーン
福島ほかほかプロジェクト (認定 NPO 法人 FoE Japan)	122,271 円 毎月 11 日の売上の 20%と 3/11 売上全額 94,118 円 + 通年の店頭募金 28,153 円 福島の子どものための保養プログラム支援
特定非営利活動法人 JIM-NET (日本イラク支援ネットワーク)	38,196 円 (チョコ募金 1 月~2 月))
一般社団法人ピースボート災害支援センター	20,134 円 熱海土砂災害緊急店頭募金(8 月)
公益社団法人フードバンクかながわ	食料品4箱 10 月貧困なくそうキャンペーン フードドライブ
保土ヶ谷区社会福祉協議会	物品寄付(マスク 食料品)
地域活動支援センター トラック	物品寄付(リメイク作業用 T シャツ)
放課後等デイサービス はるの家	物品寄付(文房具)
特別養護老人ホーム ラポール三ツ沢	物品寄付(介助用タオル)
フェアトレード品、東北物産品販売による支援	フェアトレード売上 485,423 円 東北売上51,613円

寄付・募金合計 258,454 円 フェアトレード品・東北物産品売上合計 537,036 円

【日時】通年

【場所】横浜市保土ヶ谷区

【従事者人数】理事 10 人・ショップスタッフ6人 支援チーム 5 人

【受益対象者】市民 支援先の住民

【支出額】 578,189 円

Ⅲ 地域市民の国際的な問題意識の向上を図る事業(共育事業)

1. 地域市民との交流と共育を図るため、オンライン WE 講座を開催しました。

「子どもを見守り、育てる地域の力」をテーマに WE21 グループの 5 地域で開催しました。保土ヶ谷区で活動している子育て団体や福祉団体に参加呼びかけを行いました。

10月2日(土)13:30~15:00 講師:渡辺久子さん

共催:WE21 青葉、港南、こうほく、よこすか、ほどがや 協力:WE21 ジャパン

誰もが生きやすく、安心して子育てができる社会をつくるため、私たち地域の大人たちに何ができるのか、長年、小児精神医学を専門に複雑な環境に生きる親子を治療し支援していらした渡辺久子先生に、ヒントになるお話を伺いました。当日は 100 人を超える多世代の参加があり、特に若いお母さんたちから日頃の悩みが寄せられ、質疑応答も活発でした。シニアからは「次世代の人たちが安心して笑顔で 生きられる地域づくりを私たちも頑張らねば」との感想が届きました。

2. 支援先報告会を開催しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会員・ボランティア限定の呼びかけで実施しました。

2月19日(土)10:00~12:00 「平和村ユナイテッド」小野山亮氏 参加者数 18 名

3. ショップに募金箱を置き、寄付文化を広げる取り組みをすすめました。

コロナ禍により生活困窮になった人たちへの寄付の呼びかけを行いました。店頭それぞれの団体の活動パンフとともに募金箱を 3 個置き、選択して募金ができるようにしました。チャリティショップでの新しい支援の形を示すことができました。

- ・自立生活サポートセンター・もやい ・しんぐるまざあず・ふおーらむ ・移住者と連帯する全国ネットワーク
- ・「福島ぽかぽかプロジェクト」への募金箱は常設しています。
- ・「JIM-NET」のチョコ募金を実施しました。

4. 情報に応じて様々なオンライン講座・フォーラムへ参加しました。

- | | | |
|--|------|-----|
| ① 「児童買春、児童ポルノ禁止法の抜本的改正を求める署名」24 筆提出(7 月末アジアの女性と子どもネットワークへ送付) | | |
| ② しんぐるまざあず・ふおーらむ活動報告会 | 6/13 | 2 名 |
| ③ チャリティショップ白書を読む会 | 6/17 | 4 名 |
| ④ 「ミャンマーの市民社会は今—私たちは何ができるのか？」 | 8/7 | 1 名 |
| ⑤ サーキュラーコットンファクトリー勉強会 | 8/23 | 7 名 |
| ⑥ アフガニスタン報告会 | 8/25 | 6 名 |
| ⑦ 「森育ちのしょうがパウダーの生産地とつながる」 | 2/19 | 1 名 |
| ⑧ 「核兵器廃絶を目指して～行動する若者からの提言」 | 2/24 | 5 名 |
| ⑨ インド報告会 | 3/6 | 3 名 |
| ⑩ ロシアのウクライナ侵攻に反対するポスターをショップに掲示 | 3/2~ | |

- 【日時】通年
【場所】主に横浜市保土ヶ谷区
【従事者人数】理事 10 人 ショップスタッフ6人 支援チーム 6 人
【受益対象者】市民 支援先の住民 会員 ボランティア
【支出額】 9,844 円

IV WE ほどがや事業の広報普及を図る事業(広報事業)

1. 「ほどがやニュース 67 号」を発行しました(11 月 700 部)
広報チームが中心となって、参加型の活動を魅力的に伝える紙面づくりを行いました。資源循環の活動をわかりやすくするために、寄付品の行方のイラストを掲載し、好評でした。
2. 店内の掲示態勢づくりを行いました。
スタッフと支援チームで連携し、資源の循環や支援活動の取り組みについて、わかりやすい効果的な掲示の工夫に努めました。限られたショップのスペースを使った有効なアピールが課題です。
3. よりアピール性の高いセールやイベントチラシの作成に努めました。
 - ① 2020 年度リユース・リサイクル活動報告、支援先報告ミニチラシ(6 月 1000 部)
 - ② 寄付品チラシ(6 月 1000 部)
 - ③ 賛助会員拡大キャンペーンチラシ(6 月)
 - ④ フェアトレードフェアチラシ 200 枚
 - ⑤ 初売りチラシ 400 枚 ⑥よみがえり説明カード 100 枚
4. WE21 ほどがやの活動について、タイムリーで効果的な情報発信に心がけました。
 - ① WE21 ほどがや HP の更新回数
お知らせ11回 星川店15回 天王町店14回 その他・バナーの変更、寄付品ページの変更
 - ② ほどがやのフェイスブックを立ち上げ(9/10) アフガニスタンの人たちへの応援メッセージを発信しました(9/10)
 - ③ WE21 ジャパンHPの地域用のブログで、ほどがやの活動を発信しました。
5. 会員・ボランティア・寄付者へタイムリーな活動報告や情報提供を行いました。
 - ① 総会議事録、2020 年度支援報告とリユースリサイクル活動報告、寄付品チラシの送付(7/15)
 - ② 2020 年度年次報告書と、10/2 オンライン WE 講座のチラシ送付(9/7)
 - ③ ほどがやニュース 67 号とめぐりめぐる、振替用紙の送付、つなぐ書店案内、年末の挨拶(12 月)
 - ④ チャリティショップ白書 40 冊を注文。理事、スタッフ、ボランティア、行政、市民活動拠点などに配布した(12 月～)

- 【日時】通年
【場所】主に横浜市保土ヶ谷区 神奈川県

【従事者人数】理事 10 人 ショップスタッフ 6 人 広報チーム 5 人
【受益対象者】市民
【支出額】 72,380 円

V 事業を实践するための組織活動

1. 持続可能な組織づくりに努めました。

- ① 毎月定例理事会を開催し、組織運営、活動推進力を高めるように努めました。
- ② 各チーム、部会を定例開催し、内容、課題などを理事会に報告し、組織の活性化につなげました。
- ③ 会員拡大
正会員は 58 名、1 団体、賛助会員は 16 名 37 口でした。
・活動への賛同、会費納入への積極的な呼びかけが必要です。
・7、8 月にワンコイン(500 円)で WE ショップを応援していただく「賛助会員拡大キャンペーン」を実施し、会員証を作成しました。
・会費や寄付納入の便宜をはかるため、ゆうちょ銀行振替口座を開設しました(9/2)
- ④ 活動への賛同と寄付の呼びかけを強化し、寄付者の拡大に努めました。 寄付者 6 名
- ⑤ 組織の持続性を高めるため、月次支援金(9 月・20 万円) 神奈川県支援金(10 月・10 万円) 事業復活支援金(3 月・60 万円)のオンライン申請を行い、受領しました。
- ⑥ ボランティアの参加拡大に努めました。
・ ボランティア新規登録 3 名(11 月、12 月 天王町店)
保土ヶ谷区社協、よこはま若者サポートステーションからボランティア紹介があり、高校生のボランティアなどの受け入れを行いました。
・ コロナ禍が続き、ボランティア同士の交流の場がもてませんでした。
次年度は、ボランティアミーティングが適切な形で開催出来るように企画します。

2. 持続的なショップにするために、スタッフと雇用契約を結び、新たなスタッフも雇用しました。

- ① スタッフとの雇用契約を締結しました。
- ② 賃金体系を月給制→時間給制に変更し、シフト表をもとに日々のショップ態勢作りに努めました。
時間給制への変更によるメリット・デメリットを検証し、より働きやすい環境づくりをすすめます。
- ③ チーフスタッフ制を廃止し、スタッフの業務のなかで必要なものは役割分担をしてすすめました。
- ④ 10 月より時給 1,040 円に改定しました。
- ⑤ 時間給制への変更にともない雇用契約書、給与規定を改定しました。
- ⑥ 雇用者との個別の面談は実施できませんでした。
- ⑦ ショップスタッフミーティングを毎月開催し理事会提案につなげました。
- ⑧ 天王町店 1 名を雇用(2022 年 1 月) 星川店 1 名雇用(2022 年 4 月)
・スタッフの研修期間の対応について決定しました。

3. 事務局・会計担当者、広報担当者と業務委託契約を締結し、事業を円滑にすすめました。

4. 持続可能な組織にするための世代交代を見据えた取り組みを目ざしました。

WE21 ほどがやの担い手も顧客層も高齢化するなかで、WE ショップの今後のあり方やより良い運営方法を理事、スタッフで討議、実践していくことを目指しましたが、コロナ禍で集会することを控えたこともあり、取り組みは進みませんでした。次年度の課題です。

5. WE21 ジャパン地域NPO, 生活クラブ運動グループ、地域の団体と連携してのまちづくりをすすめました。
- ① 地域で活動する多様な団体、福祉施設や作業所、保土ヶ谷区社会福祉協議会、保土ヶ谷区役所・ほどがや地域活動センター アワーズなどと連携し、チャリティショップとしてショップの寄付品を提供し、地域でのたすけあいに寄与するなど、寄付品がより生かされる方法を考えました。
 - ・ 仏向地域ケアプラザよりストックング、マスクの寄付(5/31)
 - ・ 保土ヶ谷区社協にマスクの寄付(9/21・1/17) ・ラポール三ツ沢、トラックに物品寄付
 - ・ WE 講座への参加呼びかけ アワーズ、生活クラブ、NPO 法人ちゃっと、保土ヶ谷区社協、子育て支援拠点こっころ、はるの家 ヒップファミリークラブ、ASCC
 - ② 認定NPO法人 WE21 ジャパンとは事業の受託、委託に関する基本契約を結び、また他の WE21 ジャパン地域 NPO とも連携し、WE21 ジャパン・グループとしての運動を広めました。
 - ・2021 年度 WE21 ジャパン合意による物流事業費・商標使用料・ネットワーク推進費
リユースリサイクル環境事業委託費 753,968 円(税込) 商標使用料 240,000 円
ネットワーク推進費 0 円 合計 993,968 円(月 82,831 円)
 - ・WE21 ジャパングループ会議(年 4 回開催)に参加しました。
 - ・WE21 ちがさきへ見舞い金(近隣火災の被害)として各ショップより 5,000 円拠出しました。
 - ・WE21 ジャパンのチャリティフィットネス(脂肪を燃やして国際協力!)に、理事、スタッフ、ボランティアの有志が参加しました。11/13~12/19
 - ③ WE ショップを職業体験や就労体験の場として受け入れに貢献しました。
 - ・ WE21 ジャパンインターン研修を 2 名を受け入れました(8/24)
 - ・ 就労支援生1名を受け入れました(青少年指導センター・ワーコレ協会) (7/1~10 回)
 - ・ WE21 ジャパンスタッフ研修 1 名を受け入れました(11/10)
 - ・ 岩崎中学校の職業体験(例年 1 月実施)は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。
 - ④ 商店会に参加しました。
 - ・ 天王町店が天王町商店会(テレミン商店会)への参加更新を行いました。
 - ・ 星川店が星川商店会(2022 年 3 月 27 日発足)に加盟しました。
 - ⑤ 生活クラブ運動グループ「保土ヶ谷・西まちづくり協議会」との連携は活動休止で実施できませんでした。協議会のメンバーである「NPO 法人ワーカーズ・コレクティブたすけあい皆人」さんの解散に当たり、椅子、チラシ用ラック、ロールカーテン、電子レンジなどを譲り受けました。
 - ⑥ ほどがや生涯学習フォーラムまなぶん祭りの役員会、実行委員会に参加しました。
 - ・ 2022 年 1 月29・30 日参加団体の活動アピールのための展示会開催に向けて、準備会 1 回 実行委員会4回 役員会5回 開催しました。しかし、感染急拡大のため展示会の開催は中止となり、記録集の発行のみとなりました。
 - ⑦ 保土ヶ谷区魅力ある地域まちづくり事業「ほどがや 人・まち・文化振興会」に参加しました。
 - ・ 毎週火曜日、ショップで地場野菜の販売協力しました(朝市街道・ほどがや産直便)8, 9、2、3月は休み

- ⑧ 横浜市内在住65歳以上の方対象の割引制度「濱ともカード」の利用日を、月2回(1日、21日10%割引)とし、利用への呼びかけを行いました。(利用人数: 星川店 91 天王町店 86)
- ⑨ 横浜市子育て家庭応援事業「ハマハグ」の登録更新を行い、子育て世代にも入りやすいショップづくりを心がけました(2月)。

【日時】通年

【場所】主に横浜市保土ケ谷区

【従事者人数】理事 10 人 ショップスタッフ6人

【受益対象者】市民 会員 ボランティア

【支出額】 607,339 円

以上